

～quotations from the upaniṣads (ウパニシャッドからの引用句)～

① **jīva brahmaiva nāparaḥ**

ジーヴァ ブランマイーヴァ ナーパラハ

訳：ジーヴァ（＝生きもの）とブラフマンとは違います。

(jīva : 生き物は、brahma : ブラフマン、iva : の様なもの、nāparaḥ : 違わない)

② **ayamātmā brahma**

アヤマートマー ブランマ

[māṇḍūkya upaniṣad 1.2]

訳：このアートマン（＝たましい、内なる自己）はブラフマンです。

(ayam : この、これ、ātmā : たましい、内なる自己、brahma : ブラフマン)

③ **sarvam khalvidam brahma**

サルヴァム カルヴィダム ブランマ

[chāndogya upaniṣad 3.14.1]

訳：すべてのものと生きものは、ブラフマンです。

(sarvam : 全ては、khalu : 実に、idam : この、これ、brahma : ブラフマン)

④ **satyam jñānam anantam brahma**

サッティナム ギャーナム アナンタム ブランマ

[taittirīya upaniṣad 2.1.1]

訳：ブラフマンは、真理、知識、永遠です。

(satyam : 真実、真理、jñānam : 知識、anantam : 永遠、brahma : フラフマンは)

⑤ **nityonityānām cetanascetanānām**

ニッティヨーニッティヤーナム チェータナスチェータナーナム

eko bahūnām yo vidadhāti kāmān

エーカー バフナーナム ヨー ヴィダダーティ カーマーン

[kaṭhopeniṣad 2.2.13]

訳：すべての一時的なものの中に、永遠なもの（ブラフマン）があります。

すべての生きものの中に、意識（ブラフマン）があります。

1つ（ブラフマン）が、すべてのものと生きものに、願いを分け与えています。

(nitya : 永遠、anityānām : 一時的な物に、cetaṇaḥ : 意識、cetanānām : 生き物に、eka : 1つ、bahūnām : 多くの、yo : ～ところのもの、vidadhāti : 分け与える、kāmān : 願いを、愛を)

* textbook 『upaniṣad』 *

p.62 ll.6-7. ⑥ na tatro sūryō bhāti na candratāarakam/

ナ タットロー スーリヨー バーティ ナ チャンドラターラカム/

nemā vidyuto bhāti kutoyam agniḥ//

ネーマー ヴィッデユトー バーティ クトーヤム アグニヒ//

tameva bhāntam anubhāti sarvam tasya bhāsā

タメーヴァ バーンタム アヌバーティ サルヴァム タッサヤ バーサー

sarvamidam bibhāti

サルヴァミダム ビバーティ

[kaṭhapaniṣad 2.2.15]

訳：太陽はそこで輝きません。月も、星も、雷も、輝きません。どうしてこの火は輝くのでしょうか。ブラフマンが輝くことによって、すべてが輝いています。

(na : ~しない、tatra : そこに、sūryō : 太陽、bhāti : 輝く、candra : 月、tāraka : 星。na : ~しない、imā : この、これ、vidyut : 雷、bhāti : 輝く、kuta : どこから、どうして、ayam : この、これ、agniḥ : 火。

tam : それ、ブラフマン、eva : まさに、ただ~のみ、bhā : 輝く、

anu : に基づいて、に沿って、bhāti : 輝く、sarvam : すべて tasya : それ、ブラフマン、bhās : 輝く、sarvam : すべて、idam : これ、bhāti : 輝く)。

⑦ naiva vācā na manasā prāptum śakyo na cakṣusa

ナイーヴァ ヴァーチャー ナ マナサー プラープトウム シャツキヨー

ナ チャクシュサ

[kaṭhapaniṣad 2.3.12]

訳：ブラフマンは言葉で表せる様なものではありません。

心で考えることはできません。触れることはできません。見ることはできません。

(na : ~ではない、iva : の様なもの、vācā : 言葉で表す、na : ~ではない manasā : 心で考える、prāptum : 手に入れること、śakyo : ~されることが出来る、na : ~ではない、cakṣusa : 見る)

～quotations from the upaniṣads (ウパニシャッドからの引用句)～

p.87 11.5-8. ⑧ *yattad adṛśyam agrāhyam agotravarṇam*

ヤッタッド アドリッシャム アグラーヒヤム アゴートラヴァルナム
acakṣuḥ śrotram tat apāṇipādam/
アチャクシュフ シュロートラム タット アパーニパーダム/
nityam vibhum sarvagatam susūkṣmam tat avyayam
ニッティヤム ヴィブム サルヴァガタム ススークシュمام タット アッヴィヤヤム
yat adbhutayonim paripaśyanti dhīraḥ//
ヤット アドブタヨーニム パリパッシャンティ ディーラハ//

[muṇḍaka upaniṣad 1.1.6]

訳：ブラフマンは見るができない、掴めない、源は無い、性質は無い、目も耳も、手足もありません。永遠、遍在、多様、とても精妙、衰えません。賢い人はブラフマンを、すばらしい源としてよく理解します。

(yat：関係代名詞、tad：それ、ブラフマンは、adṛś：見れない、agrah：掴めない、avarṇ：描写できない、acakṣuḥ：目はない、śrotram：耳はない、tat：それ、ブラフマンは、apāṇi：手はない、apāda：足はない、nitya：永遠、vibhum：多様、sarvagatam：遍在、su：とても、sūkṣmam：精妙、tat：それ、ブラフマンは、avyaya：おとろえない、adbhuta：すばらしい、yoni：子宮、起源、pari：十分に、paśya：見る、dhīraḥ：賢い人は)

p.87 11.9-10. ⑨ *yathā ūrṇanābhiḥ sṛjate grhnate ca*

ヤター ウールナナービヒ スリジャテー グリンナテー チャ
yathā pṛthivyām ośadhayaḥ saṃbhavanti /
ヤター プリティッヴィヤーム オーシャダヤハ サムバヴァンティ/
yathā śataḥ puruṣāḥ keśalomāni
ヤター シャタハ プルシャーハ ケーシャローマーニ
tathā akṣarāt saṃbhavatīha viśvam //
タター アクシャラート サムバヴァティーハ ヴィシュヴァム//

[muṇḍaka upaniṣad 1.1.7]

訳：たとえばクモが自分の中から糸を出して巣をつくり、それをまた自分の中に収めるように。たとえば大地から植物が出るように。たとえば人の体から髪や体毛が出るように。まさに不滅のブラフマンから宇宙が出ます。

(yathā：例えば～の様に、ūrṇa：クモは、nābhiḥ：臍、sṛjate：生み出す、grhnāti：掴む。yathā：例えば～の様に、pṛthivyā：大地、ośadhaya：植物は、saṃbhavanti：から起こる/yathā：例えば～の様に、puruṣa：人間から、keśa：頭髪、loman：体毛。tathā：まさに、akṣarāt：不滅のブラフマンから、saṃbhavati：出る、ih：～しようとする、viśva：宇宙は)

～quotations from the upaniṣads (ウパニシャッドからの引用句)～

p.93 ll.8-10. ⑩ brahmaivedam amṛtam purastāt

ブランマイヴェーダム アムリタム プラスタート

brahma paścād brahma dakṣiṇataḥ ca uttarena

ブランマ パシュチャード ブランマ ダクシナタハ チャ ウッタレーナ

adhasca ūrdhanca prasṛtam

アダスチャ ウールダンチャ プラスリタム

brahmaivedam viśvamidam variṣṭham//

ブランマイヴェーダム ヴィシュヴァミダム ヴァリシュタム//

[muṇḍaka upaniṣad 2.2.11]

訳：不死のブラフマンは、前から後ろ、右と左、下と上にも遍在しています。
この宇宙は至高のブラフマンです。

(amṛtam : 不死、purastāt : 前から、paścād : 後ろ、dakṣiṇata : 右、南、ca : と、
uttarena : 左、北、adhas : 下、ca : と、ūrdhan : 上、prasṛtam : 普及した、
viśvam : 宇宙は、idam : これ、variṣṭha : 最も広い、最も素晴らしい、至高の)

p.236 ll.6-7. ⑪ sarvataḥ pāṇipādām tat sarvatokṣi śiromukham

サルヴァタハ パーニパーダム タット サルヴァトクシ シロームツカム

sarvataḥ śrutimalloke sarvamāvṛtya tiṣṭhati //

サルヴァタハ シュルティマローケー サルヴァマーヴリッティヤ ティシュタティ//

[śvetāśvatara upaniṣad 3-16]

訳：すべての場所にその手や足があり、頭も顔も耳も、すべての場所に持っています。それ（ブラフマン）は、すべてを覆って存在しています。

(sarvataḥ : すべての場所に、pāṇi : 手、pāda : 足、tat : それ、ブラフマンは、
sarvata : すべての場所に、akṣ : 達する、śira : 頭、mukham : 顔、śruti : 耳、
sarvam : すべてを、āvṛtya : 向く、vṛ : 覆う、tiṣṭhati : 存在する)

p.236 ll.10-12. ⑫ sarvendriya guṇābhāsam sarvendriya vivarjitam

サルヴェーンドリヤ グナーバーサム サルヴェーンドリヤ ヴィヴァルジタム

sarvasya prabhumīśānam sarvasya śaraṇam suhṛd //

サルヴァスヤ プラブミーシャーナム サルヴァッスヤ シャラナム スフリッド//

[śvetāśvatara upaniṣad 3.17]

訳：ブラフマンにはすべての感覚器官が何ともありません。

しかしブラフマンによって、私たちのすべての感覚器官は働いています。

ブラフマンは、すべての持ち主であり、避難所であり、友人です。

(sarva : 全ての、indriya : 感覚器官、guṇa : 性質、bhās : の様に見える、
sarvendriya : 全ての感覚は、vivarjita : 何もない。sarvasya : 全ての、prabhu :
卓越した、īśa : 持ち主、sarvasya : 全ての、śaraṇa : 避難所、suhṛd : 友人)

p.53 ll.6-8. ⑬ aṇoranīyān mahato mahīyān

アノーラニーヤーン マハトー マヒーヤーン

ātmasya jantor nihito guhāyām

アートマスヤ ジヤントール ニヒトー グハーヤーム

tamakratuḥ paśyati vītaśokā

タマックラトウフ パッシャティ ヴィータショーカー

dhātuprasādāt mahimānam ātmanaḥ

ダートウプラッサードート マヒマーナム アートマナハ

[kāthopaniṣad 1.2.20]

訳：1番小さい原子よりも小さく、1番大きなものよりも大きいアートマンが、私たちの胸の洞穴に入っています。欲望がなく、悲しみから離れると、心が静かになり、恩寵からアートマンの栄光を見ます。

(aṇu：原子、aṇoranīyān：原子より小さい、mahat：大きい、mahīyas：～より大きい、jantu：たましい、nihita：入っている、guhāyām：洞穴に、tam：それ、その、akuratuḥ：欲望がない、paśyati：見る、vīta：離れる、śokā：悲しみ、dhātu：要素、prasādāt：静寂から、純粋性から、恩寵から、mahimānam：栄光を)

⑭ manomayaḥ prāṇasarīro bhārūpaḥ satyasankalpa

マノーマヤハ プラーナシャリーロー バールーパハ サッティヤサンカルパ

ākāśātmā sarvakarma sarvakāmaḥ sarvagandhaḥ

アーカーシャートマー サルヴァカルマ サルヴァカーマハ サルヴァガンダハ

sarvarasaḥ sarvamidam abhyāttaḥ(avākyanādarah) //

サルヴァラサハ サルヴァミダム アッビヤッタハ(アヴァーツキャナーダラハ) //

[chāndogya upaniṣad 3.14.2]

訳：ブラフマンには、心、精妙な体、輝く本性、正しい願いがあり、ブラフマンであるアートマンはアーカーシャのようであり、全ての働き、全ての願い、全ての匂い、全てのエッセンスがあり、全てに遍在し、話さず、欲望がありません。

(manomaya：心、prāṇasarīro：精妙なからだ、bhā：輝く rūpa：本性、形、satya：正しい、sankalpa：願い、意志、ākāśa：アーカーシャ、空[くう]、エーテル、ātmā：アートマン、たましい、本質、sarvakarma：全ての働き、sarvakāma：全ての願い、sarvagandha：全ての匂い、sarvarasa：全てのエッセンス、sarvamidam abhyātta：全てに遍在、avākyanādara：話さず欲望が無い)

⑮ etad vai tad akṣaram gārgī brāhmaṇa abhivadanti

エータッド ヴァイタッド アクシャラム ガールギー ブラーンマナ アビヴァダンティ

asthūlam ananuḥ ahrasvadīrgham alohitam

アストウーラム アナヌフ アフラスヴァディールガム アローヒタム

asneham achāyam atamoha-vāyu anākāśam

アスネーハム アッチャーヤム アタモーハ ヴァーユ アナーカーシャム

asaṅgam arasam agandham acakṣushkam aśrotram avāk amano

アサンガム アラサム アガンダム アチャクシュシュカム アシュロートラム

アヴァーク アマノー

atejaskam aprāṇam amukham amātram anantara avāhyam

アテージャスカム アプラーナム アムツカム アマートラム アナンタラ アヴァーヤム

ya tad aśnāti kiñcana na tadaśnāti kiñcana //

ヤ タッド アシュナーティ キンチャナ ナ タダシュナーティ キンチャナ//

[brhadāraṇyaka upaniṣad 3-8-8]

訳：その存在（ブラフマン）は、衰えません。ガールギーよ。ブラフマンを悟った人がブラフマンについて説明します。ブラフマンは粗大でも原子でもなく、短くも長くもなく、赤くはなく、湿気はなく、影はなく、暗くはなく、風ではなく、アーカーシャではなく、執着はなく、味はなく、匂いはなく、目はなく、耳はなく、会話の感覚ではなく、心ではなく、明るいものではなく、生命エネルギーではなく、顔はなく、はかれるものではなく、内側も外側もなく、何も食べません。

(etad : この、vai : まさに、tad : それ、ブラフマンは、akṣaram : 衰えない。
gārgī : ガールギーよ。brāhmaṇa : ブラフマンを悟った人（ヤージュニャヴァルキヤ）が、bhi : (ブラフマン) に関して、vadati : 話します。
asthūla : 粗大ではない、ananu : 原子ではない、ahrasva : 短くない、
adīrgha : 長くない、alohita : 赤くない、asneha : 湿気はない、achāyā : 影はない、
atamoha : 暗くない、avāyu : 風ではない。anākāśa : アーカーシャ[5つの要素の1つ]ではない、asaṅga : 執着はない、arasa : 味はない、agandha : 匂いはない、
acakṣu : 目はない、aśrotram : 耳はない、avāk : 会話の感覚はない、
amano : 心ではない、atejas : 明るくはない、aprāṇa : 生命エネルギーではない、
amukham : 顔はない、mātra : はかれない、anantara : 内側はない、avāhya : 外側はない。tad : それ、ブラフマンは、aśnāti : 食べる、kiñcana : 何も～ない)

～quotations from the upaniṣads (ウパニシャッドからの引用句)～

p.238 ll.7-10 ⑩ tvam strī tvam pumānāsi tvam kumāra uta

トゥヴァム ストゥリー トゥヴァム プマーナシ トゥヴァム クマーラ ウタ

vā kumārī tvam jīrṇo daṇḍena vañcasi

ヴァー クマーリー トゥヴァム ジールノー ダンデーナ ヴァンチャシ

tvam jāto bhavasi viśvato mukhaḥ

トゥヴァム ジャートー バヴァシ ヴィシュヴァトー ムッカハ

[śvetāśvatara upaniṣad 4.3]

訳：おおブラフマン、あなたは女性です。あなたは男性です。

あなたは若い男性です。あなたは若い女性です。あなたは杖をついてよろめくお年寄りです。あなたは生まれたあと、色々な形になりました。

(tvam : あなたは strī : 女性、pumānāsi : 男性、kumāra : 若い男性、
uta : 反対に、vā : または kumārī : 若い女性、
jīrṇo : 老化して daṇḍena : 杖で、vañcasi : よろめく状態になる、
vam : 放つ、jāto : 誕生、bhavasi : ～の存在になる、
viśvato : 全てにおいて、至る所で、mukhaḥ : 顔、口、前面)。

p.137 ll.9-11 ⑪ yathā saumya ekena mṛtṭpiṇḍena

ヤター ソウミヤ エーケーナ ムリットピンデーナ

sarvam mṛnmayam vijñātam syāt /

サルヴァム ムリンマヤム ヴィッギヤータム スヤート /

vācārambhaṇam vikāro nāmadheyam

ヴァーチャーラムバナム ヴィカーロー マーマデーヤム

mṛttikā ityeva satyam//

ムリッティカー イッティエーヴァ サッティヤム//

[chāndogya upaniṣad 6.1.4]

訳：息子よ、たとえば1つの土の塊を知ることによって、土でつくられたあらゆる物が知られるように、異なるのは名前のみであり、それは言葉から発生するのであって、真実は全てが土ということである。

(父ウッダーラカ・アールニは、息子シュヴェータケートゥに言いました。

yathā : たとえば、saumya : 息子よ、ekena : 1つの、mṛt : 土の、
piṇḍena : 塊を知ること、sarvam : 全ての mṛnmayam : 土製のものを、
vijñātam : 理解できます、syāt : おそらく。 /

vikāro : 変化は、nāma : 名前、dheyam : 置く、vāc : 言葉、

ārambhaṇam : でおこるだけです。mṛttikā : 土、ityeva : である事が、
satyam : 真実です)

p.117

⑱ bhrigurvai vārūṇiḥ varunam pitaram upasasāra /

ブリグルヴォイ ヴァールニヒ ヴァルナム ピタラム ウパササーラ/
adhīḥ bhagavo brahmeti //

アディーヒ バガヴォー ブランヘーティ//

tasmā etat provāca / annam prānam cakṣus śrotram mano vācamiti

タスマー エータット プロヴァーチャ / アンナム プラーナム チャクシュス

シュロートラム マノー ヴァーチャミティ //

tagam hovāca / yato vā imāni bhūtāni jāyante /

タガム ホーヴァーチャ / ヤトー ヴァー イマーニ ブーターニ ジャーヤンテー /

yena jātāni jīvanti / yat prayantyaabhisamviśanti /

イエーナ ジャーターニ ジーヴァンティ / ヤット プラヤンティアビスサム/ヴィシヤンティ /

tat vijijñāsasva / tad brahmeti //

タット ヴィジジグヤーサッスヴァ / タッド ブランヘーティ //

sa tapotapyata // sa tapastaptvā

サ タポータッピヤタ // サ タパスタプトウヴァー //

[taittirīya upaniṣad 3 bhṛgu vallī]

訳：ヴァルナの息子ブリグは、父ヴァルナ に近づいて、「師よ、私はブラフマンの
ことを理解したいです」と言いました。//

ヴァルナはブリグにこう言いました。「食べもの、生命エネルギー、目、耳、心、
会話もブラフマンです」と。//

ヴァルナはまさに言いました。「すべてのものは、それから生まれ、それによって
生き、なくなるとそれに入ります。それを、あなたは理解して下さい」と。

そして「それについてタパスをして下さい」と言いました。

ブリグはタパスをしました。

(bhrigurvai : ブリグは実に、vārūṇiḥ : ヴァルナの子、varuna : ヴァルナという、
pitara : 父、upasasāra : の近くへ来て、/adhī : 理解したい (と言った)、bhagavo :
神、師よ (グルへの呼びかけ)、brahma : ブラフマンは、iti : こうですと。//

tasma : それ、etat : これ、provāca : 語った。annam : 食べ物、prānam : 生命エ
ネルギー、cakṣu : 目、śrotram : 耳、mano : 心、vāc : 会話、amita : 無限の。//
tagam : 彼、hi : まさに、uvācha : 言った、yato : 何故ならそこから、vā : そして、
imāni : これ、bhūtāni : 要素は、jāyate : 生まれる、yena : それにより、jātāni :
生物は、jīvati : 生きる、yat : 関係代名詞、prayanty : 行く、abhi : の方向に、sam :
共に、viś : 入る。//

tat : それ、viji : 克服して、jñā : 理解する。tad : それ、brahma : ブラフマンは、
iti : こうですと。//

sa : それ、tapo : 霊的实践、tapyate : 霊的实践する//

sa : それ、tapas : 霊的实践、taptvā : 霊的实践した//

～quotations from the upaniṣads (ウパニシャッドからの引用句)～

⑱ annam brahmeti vyājānāt

アンナム ブランヘーティ ヴィヤージャーナート

annādhyeva khalvimāni bhūtāni jāyante

アンナーディエーヴァ カルヴィマーニ ブーターニ ジャーヤンター

annena jātāni jīvanti

アンネーナ ジャーターニ ジーヴァンティ

annam prayantyabhisamviśantīti

アンナム プラヤンティヤビスムヴィシャンティイーティ

(tad vijñāya / punareva varunam pitaram upasasāra /

(タッド ヴィジグヤーヤ/プナレーヴァ ヴァルナム ピタラム ウパササーラ/

adhīhi bhagavo brahmeti / tagam hovāca

アディーヒ バガヴォー ブランヘーティ / タガム ホーヴァーチャ/

tapasā brahma vijijñāsasva /

タパサー ブランマ ヴィジグヤーサッスヴァ/

tapo brahmeti / sa tapotapyata / sa tapastaptvā)

タポー ブランヘーティ/ サ タポータッピヤタ / サ タパスタプトウヴァー)

[taittirīya upaniṣad 3 bhṛgu vallī]

訳：父ヴァルナは「食べものはブラフマンです。なぜなら皆さんは、生まれ、食べもので維持され、食べものに入ります」と助言しました。

しかし息子ブリグは、「食べものには始まりがあり、変化してなくなりますから、ブラフマンではない」ということを、タパスで理解しました。

また父のところへ行き、「師よ、私にブラフマンを教えてください」と言いました。

父は「タパスをすると分かります。タパスして下さい」と言いました。

ブリグはさらにタパスしました。

(annam : 食べ物、brahma : ブラフマンは、iti : こうですと、vyā : 説明する、jānāti : 知る、eva : 正にただ～のみ、khalu : 実に、確かに、imāni : この、これ、bhūtāni : 要素は、jāyate : 生まれる、annena : 食べ物によって、jātāni : 生物は、jīvanti : 生きる、annam : 食べ物に、prayanty : 行く、abhi : の方向に、sam : 共に、viś : 入る。/ tad : それ、vijñāya : 正確に知る /

punar : 再び、eva : 正にただ～のみ、varuna : ヴァルナ、pitara : 父に、upa : 近づいて、sasāra : 強さやエネルギーを持って /

adhī : 理解する、bhagavo : 師よ、brahma : ブラフマンは、iti : こうですと // tagam : 彼、hi : まさに、uvācha : 言った /

tapasā : 霊的实践で、brahma : ブラフマン、viji : 克服して、jñā : 理解する /

tapo : 霊的实践、brahma : ブラフマンは、iti : こうですと//

sa : それ、tapo : 霊的实践、tapyate : 霊的实践する //

sa : それ、tapas : 霊的实践、taptvā : 霊的实践した//)

～quotations from the upaniṣads (ウパニシャッドからの引用句)～

・・・の部分は、⑲と同じ文章です。

⑳ prāṇo (生命エネルギーは)・・・
prāṇādhyeva・・・
prāṇena・・・
prāṇam・・・
・・・

㉑ mano (心は)・・・
manaso hyeva・・・
manasa・・・
manaḥ・・・
・・・

㉒ vijñānam (知性は)・・・
vijñānatdhyeva・・・
vijñānena・・・
vijñānam・・・
・・・

㉓ ānando (至福は)・・・
ānandatdhyeva・・・
ānandena・・・
ānandam・・・

saiṣā bhārgavī vārunī vidyā (これがヴァルナが教えてブリグが学んだ知識です)
[taittirīya upaniṣad 3 bhṛgu vallī]

以上